

協議会ニュース 137号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2012. 12



オニグルミ：頂葉と葉痕

杉澤 周子（奥三河支部）

フォローアップ研修「水辺の生き物から里山を学ぶ」
名古屋支部 30 周年事業にたずさわって
川の生物を捕らえて
月明かりでシラタマホシクサを見よう
陸貝調査 名古屋で探そう カタツムリ
日本人は植物をどう利用してきたか
観察会のヒント
私の活動紹介
理事会報告
事務局より
行事案内・編集部

尾張支部 内海 勇夫……P2
名古屋支部 石橋 純子……P3
西三河支部 三田 孝……P4
三河支部 星野 芳彦……P5
名古屋支部 森 美紀……P6
東三河支部 中西 正……P7
西三河支部 河江 喜久代…P8
西三河支部 松山 太……P9
……P10
……P11
……P12

水辺の生き物から里やまを学ぶ

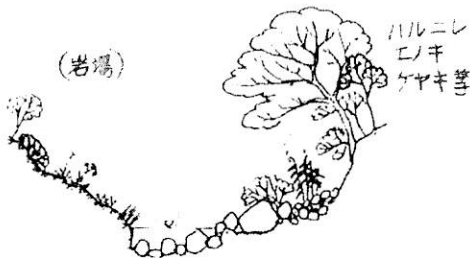
第152回NACS-J自然観察指導員フォローアップ研修会・愛知県

10月7日(土)～8日(日) あいち海上の森センターにて

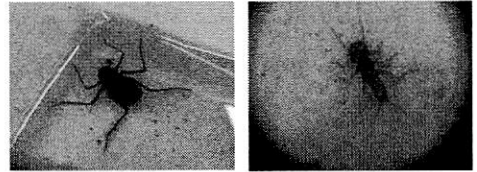
尾張支部 内海 勇夫

今回の研修は、小川や田んぼ、ため池などに生息する水生昆虫や両生類、魚などを観察し里山の環境や成り立ちを考えるというものでした。

初日は実習の方法や安全管理などの説明を受け、足立 高行講師班と大谷 敏和講師班に分かれて野外観察に出かけました。最初に「水生生物調査票」に地形や河岸の様子、流水状況と写真での記録、さらには川に入って断面の様子を記録しました。



上図は上流の河川自然植生模式図の一例です。生き物を採集する前に、こうした周りの様子の記録が大切であることが分かりました。



いよいよ水生生物の採集です。川では下流から採集します。いろいろな生物がつかまりました。

榊原 靖講師からは、トンボ・トビケラ・カゲロウや魚、エビなどについて説明を受けました。エビの仲間は中国から入り込んだものもあり、区別が難しいことなどいろいろ教えていただきました。また、採集した生き物を、スコア表(大型底生動物による河川水域環境評価のための調査マニュアル)にまとめました。

2日目は、班での成果をまとめました。各班の発表には、注目すべき点があり、環境についてのとらえ方が発見できたと思います。

子供が参加する川での観察会は、川遊びになりがちですが、観察会に少しずつ取り入れられることが見つかった研修会でした。

スコア表

項目	スコア	項目	スコア	項目	スコア	項目	スコア
1. 底生動物	1	2. 水生昆虫	2	3. 魚類	3	4. 両生類	4
5. 爬虫類	5	6. 鳥類	6	7. 哺乳類	7	8. 植物	8
9. 地質	9	10. 地形	10	11. 水質	11	12. 気象	12
13. 土壌	13	14. 大気	14	15. 水質	15	16. 気象	16
17. 土壌	17	18. 大気	18	19. 水質	19	20. 気象	20
21. 土壌	21	22. 大気	22	23. 水質	23	24. 気象	24
25. 土壌	25	26. 大気	26	27. 水質	27	28. 気象	28
29. 土壌	29	30. 大気	30	31. 水質	31	32. 気象	32
33. 土壌	33	34. 大気	34	35. 水質	35	36. 気象	36
37. 土壌	37	38. 大気	38	39. 水質	39	40. 気象	40
41. 土壌	41	42. 大気	42	43. 水質	43	44. 気象	44
45. 土壌	45	46. 大気	46	47. 水質	47	48. 気象	48
49. 土壌	49	50. 大気	50	51. 水質	51	52. 気象	52
53. 土壌	53	54. 大気	54	55. 水質	55	56. 気象	56
57. 土壌	57	58. 大気	58	59. 水質	59	60. 気象	60
61. 土壌	61	62. 大気	62	63. 水質	63	64. 気象	64
65. 土壌	65	66. 大気	66	67. 水質	67	68. 気象	68
69. 土壌	69	70. 大気	70	71. 水質	71	72. 気象	72
73. 土壌	73	74. 大気	74	75. 水質	75	76. 気象	76
77. 土壌	77	78. 大気	78	79. 水質	79	80. 気象	80
81. 土壌	81	82. 大気	82	83. 水質	83	84. 気象	84
85. 土壌	85	86. 大気	86	87. 水質	87	88. 気象	88
89. 土壌	89	90. 大気	90	91. 水質	91	92. 気象	92
93. 土壌	93	94. 大気	94	95. 水質	95	96. 気象	96
97. 土壌	97	98. 大気	98	99. 水質	99	100. 気象	100



名古屋支部30周年事業にたずさわって

名古屋支部 石樽 純子

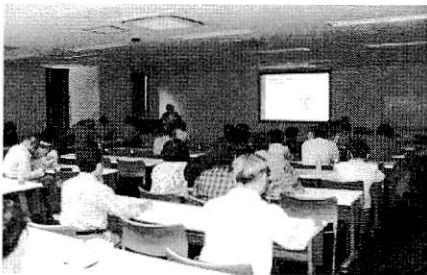
10月6日、名古屋駅「ウイंक愛知」に於いて、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部の30周年記念事業として、式典と講演会が行われました。

■準備作業

1月28日(第1回)の実行委員会を皮切りに、石原則義実行委員長、滝田久憲支部長を中心に8回の委員会を開き、日程、場所、人選、予算などを決め、担当者を中心に計画を進めてきました。

記念講演会、各自然観察会の活動発表、パネル7枚による観察会の展示などに加えて30ページ程の記念誌「なごやの自然・2012」も作成して、当日300冊配布されました。また、事前に自然観察会のスタンプラリーを行い、4回以上参加の方にバードビンズをプレゼントすることにしました。

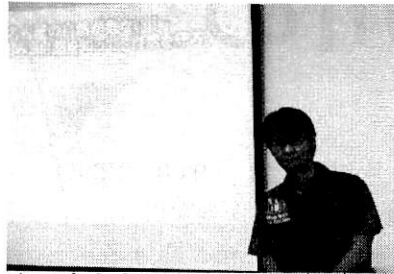
プレ企画としては、4月29日に全国トンボ市民サミット(第23回)磐田大会にバスツアーを組んで参加しました。さらに「なごやの自然・2012」の写真部分をパネルにして、セントラルパーク情報ギャラリー、環境学習センターエコパルに展示しました。



▲各観察会活動発表

■当日を迎えて

記念講演は、鉄崎幹人さんが「名古屋の自然が危ない!」をテーマにお話されました。山崎川の生き物(カメは孵化温度が高いと全てメスになるとか)、庄内川の汚れの



▲アウトドアタレント 鉄崎 幹人氏

こと(生活排水で河口のシジミは洗剤の味とか)、生物の絶滅のこと(原因のひとつの外来種を食べて減らす話)など興味深いことをたくさん教えて頂きました。

記念誌は、ページ割りやデザイン、原稿の依頼、写真にはこれまでの観察会で撮りためたものの中から、どれをどんな分け方で載せるのか等々、決めることも山積みでしたが、みなさん有能でしっかり責任を果たされました。良いものが出来上がりうれしいです。

パネルは大きいので、思ったより作業が大変で時間を取られましたが、今回作ったものは作品として残っていますので、今後も折あるごとに展示活用できればよいと思います。

■記念事業を終えて

新参者の私が報告役になってしまい、30年の重さを十分伝えることができませんが、これまで地道に観察会を続けてこられた先輩指導員の志の高さや責任感を垣間見て、こういう方々が作りあげられた30年にただ頭が下がる気持ちです。

私も立派な先輩方の後を継いで、指導員としてのスキルアップだけでなく、自然を大切にする社会をつくるため、より多くの人に自然への関心を持って頂くための活動に関わっていきたいと思っています。

レポート あいちの自然観察会

川の生物を捕らえて

西三河支部 三田 孝

日時 8月25日(土) 9:00~12:00

場所 豊田市田町 逢妻女川

参加者 一般 3名、指導員 4名

逢妻女川は豊田市の南西部を流れる境川水系の川で、源流の大清水町は住宅も多く立ち並ぶ丘陵地です。観察地は生活排水がかなり流入している川の中流域になります。

当日は朝から晴天でたいへん暑い日になりました。日避けのテントを立て、観察用の大型水槽を用意し準備万端で臨んだのですが、定刻になっても一般参加者の姿が見えません。諦めかけた頃に一家族の車がやってきました。受付場所の逢妻交流館がわからず道に迷っていたとのこと。ようやく観察会が始まりました。

まず、亀を捕らえるためのワナ（亀籠）を仕掛け、小学生の男の子とともに川に入り魚捕り。水深30cm程度で流れも緩やかで安全に活動できるところでした。

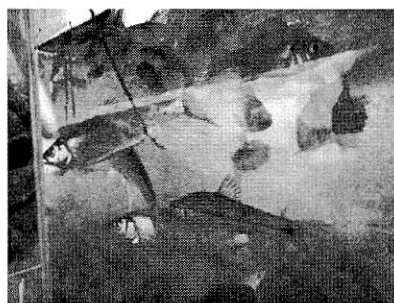
漁獲はオイカワ、モツゴ、ギンブナ、カマツカ、コイ、ブルーギル、オオクチバス、カムルチー、ウシガエルのオタマジャクシなど。

亀籠にはアカミミガメが入っていましたが、隣にセルロイド状の甲羅の破片が見つかりました。亀も大きくなるためには甲羅が一区画ずつ脱皮する様子がよく分りました。

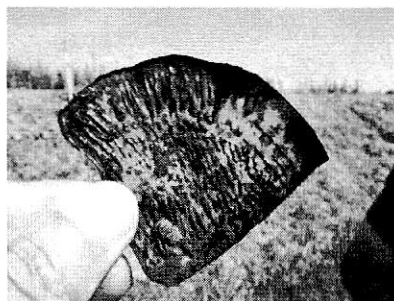
今回は暑すぎたのか、PR不足なのか、参加者が少なく静かな観察会でしたが、一家には楽しんでもらえたものと思います。



▲逢妻女川



▲オイカワ、モツゴ、など



▲亀の甲羅の脱皮片

レポート あいちの自然観察会

月明かりでシラタマホシクサを見よう 葦毛湿原湿原

東三河支部 星野 芳彦

日時 9月29日(土)

場所 豊橋市 葦毛湿原

参加者 一般29名、指導員30名

台風21号の進路が気になりな9/29(土)豊橋市の葦毛湿原で、夕方から夜の観察会を催しました。

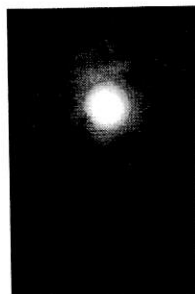
同様の企画は2006年10月7日にも行いました。見事な十五夜の月明かりの下でのナイトハイクのわくわく体験や、月光に照らされたシラタマホシクサの群落が「地上の天の川」に感じられたことなどが大好評で多くのリクエストがありました。そのような事情で、十五夜がちょうど週末にあたる今年にリバイバルの運びとなったわけです。

観察会当日は、十五夜の前日で月齢13.0日没17:39 月出16:54でした。台風の接近で雲が広がり、月の姿が見られるかどうかの微妙な天候でしたが、17:30に開始。

まず、ナイトハイク前に秋の鳴く虫とコウモリについてのミニ講義を行いました。スタッフの小学生の娘さんがコウモリに扮して大活躍でした。

続いていよいよ自然歩道のナイトハイクです。参加者は各自でライトを持参していましたが、未舗装路での転倒防止などの安全対策として、スタッフで事前にコース内の危険個所に蛍光リングを設置して注意を促しました。これが功を奏したか無事に観察会を進められました。

ナイトハイクの途中、雲の切れ間からの月が、木漏れ日ならぬ木漏れ月となりました。本能を刺激されるような不思議な感覚



▲当日の月



▲BAT GIRL 登場

におそわれます。暗闇にもすこしずつ慣れてきて、モノトーンの夜の雑木林の様子が徐々に浮かんできます。

湿原の入り口前の広場では、葦毛周辺の地質ミニ講座で「チャート」が話題にのぼりました。このチャートは古くから火打石として用いられていて、暗闇で実演したところ火花が実に驚くほどきれいで、歓声に包まれました。おまけとして行った三色のLEDによる光の実験も好評でした。

湿原では、葦毛の保護・再生活動に長く携わっているスタッフが、インタープリターをつとめました。自然を「感じ」、「知り」、「保全する」といった私たちの自然観察活動の原点を再確認できたと思います。

通常と異なる時間帯は、慣れたフィールドでも全く別の体験ができます。入念な準備とリスクマネジメントは欠かせませんが、夜の観察会はワクワクします。リクエストに応じてまたやってみたくなりました。

なお、観察会の詳細は、当NPO(東三河支部)のHPをご覧ください。

陸貝調査

なごやで探そう！ カタツムリ

名古屋支部 森 美紀

10月6日～8日に名古屋市内の30ヶ所にて、なごや生物多様性保全活動協議会主催による陸貝調査が行われました。地域サポーターとして相生山緑地と熱田神宮公園での調査に参加しました。

10/6 相生山緑地 市内最多 19 種確認

相生山緑地では緑区内の中学生グループと先生を含む15名が参加。守屋 茂樹講師の説明、近藤 記巳子会員の観察の際の注意事項の後、相生口入り口近くのコンクリートブロックを早速ひっくり返してみました。中から小さな陸貝をいくつか発見。ルーペなどじっくりと全員で観察後スタートしました。

緑地外周では移動しつつ、思い思いの場所を見つけて調査をしました。皆さん目が慣れてきたのか「ここにもいた～」「いたよ～」と声上がり、なかにはタッパー一杯にイセノナミマイマイ等を採取する中学生もいてとても驚きました。

山根口より再度緑地に入りトンボ池周辺へ移動。しいたけのホダギの下や木の根元等の比較的湿っている場所の腐葉土を用意した洗濯ネットに入れ篩にかける。受けたトレーを丹念に探すと最初は土と同化してなかなか見つけられなかったが、かすかにキラッと光る陸貝を皆さん次々と発見し、たくさん採取することができました。

相生山緑地では過去2回独自に調査を実施。今回3回目は調査方法としては初めてネットを活用して実施しました。生物多様性センターに持ち帰って詳しく調べたところなんと19種類の陸貝を発見し、今回調査地の中で最多の陸貝を発見したとのことでした。



▲採取した陸貝の説明を聞く参加者



▲ヒクギセル

10/7 熱田神宮公園 ヒクギセル発見

熱田神宮公園では親子連れ、大学生など12名が参加しました。川瀬 基弘講師より説明後、普段は入れない断夫山古墳にて調査をスタート。直後に近藤 記巳子会員がヒクギセルを発見。ヒクギセルは関東南部や伊豆諸島に多く生息しているが、東海地区では断夫山古墳のみで確認されている陸貝です。30年前に確認されているとの事ですが、なぜこの場所のみ生息しているのか不明との事です。今回この場所で調査した陸貝の中では一番多く採取されていました。

陸貝は地味であり馴染みがないのではと思っていましたが、2日とも皆さん熱心に、楽しんで参加されていたのが印象的でした。今後もこのような調査を通して、名古屋の自然に皆さんが関心を持って頂ければと願っています。

= 新刊案内 = 中西弘樹著 岩波ジュニア新書 岩波書店発行

「日本人は植物をどう利用してきたか」

東三河支部 中西 正

本年の春、協議会の総会時に講演して頂いた中西弘樹先生が、表題の本を出版されました。先生は愛知県出身で愛知教育大学、広島大学に学び、現在は長崎大学教授です。学生時代から全国各地に植物の調査に出かけ、その折に人々の生活の中で、植物がさまざまなかたちで利用されていることを記録してきました。その利用法は長い間に考え出された日本人の知恵と工夫といえます。

内容は次の6項目に分かれています。1. 食材として 2. 健康のため 3. 日常の道具として 4. 成分を利用する 5. 家の構成要素として 6. 年中行事とのかかわりで、それぞれの項目は5～10の小項目に分けて説明しています。

たとえば1. 食材としての(1)は「野生の果物」で、イチゴ、モモ、ナシ、アケビなどの説明があります。アケビの項では近江八幡では天智天皇がこの地を訪れた際にムベを食べ、大変気に入ったという伝説があり、今でも秋になると、かごに入れたムベの果実を天皇に献上しているとあります。

また、4. 成分を利用するの(1)は「洗う」で、ここではムクロジが取り上げられており、沖縄の今帰仁では最近まで使っていたということです。この植物は小野蘭山の「本草綱目啓蒙」の中にも取り上げられている、とあります。このように植物の説明だけでなく、文献や歴史からの説明が多いことが本書の特長だと思います。

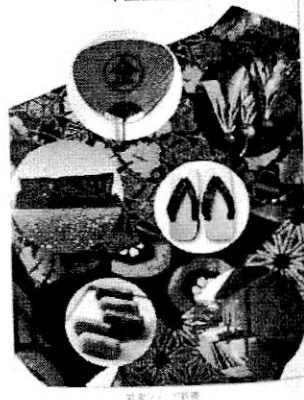
植物の利用についての内容は全国に及んでいますが、先生の出身地が愛知県ということで、愛知県の地名が数多く出ています。愛知県の事物がそれだけ多く記録されていることになります。このことが本書の

第2の特長と思われます。我々にとってはうれしいことです。

「現代の暮らしには目先の便利さを追求しているあまり、潤いとか落ち着きが感じられません。見直しが求められている今、改めて自然とうまく調和した昔からの日本人の知恵を知り、取り込んでいきたいものです。」とあります。と同時に読者に向かって、「皆さんも、郊外や田舎に出かけた時などに、植物を利用した道具や風習などを目にしたら記録しておいてください。きっと、自然と共に暮らしてきた日本人の知恵に気付かれることでしょう。その中に、自然環境を大切にすることからの新しい暮らし方のヒントが見つかるかもしれません。」とあります。このメッセージはまさしく我々協議会の会員に向けられたものと受け止めてもいいのではないのでしょうか。

日本人は植物をどう利用してきたか

中西弘樹 著



▲表紙「日本人植物をどう利用してきたか」



自然観察のヒント

木の実・草の実のケーキ

西三河支部 阿江 喜久代

散策に出掛けるといろいろなものを集めてしまいます。木の実・草の実・葉っぱ・花がら・小枝などは、私のお宝です。集めてあるお宝で何か作れないか考えました。女性も子どももケーキが好き。そこでお宝で飾るケーキを作ることになりました。

【自然を觀賞するケーキの作り方】

ケーキの台はインスタント焼きそばの器です。ひっくり返してコピー用紙を貼り、仕上げに習字紙をちぎって貼りました。

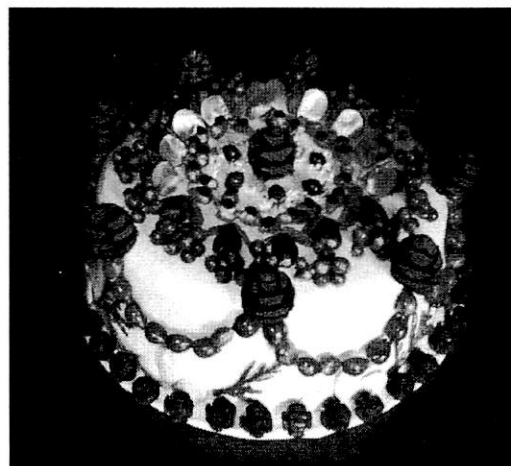
ケーキ屋さんのショーケースの中をよく見たり、ケーキのチラシも参考にしたりして、木の実や葉っぱをおいしそうに飾り付けます。

ほとんどの材料は木工用のボンドで付けますが、ケーキの台に千枚通しで穴を開けて差し込んだり、針と糸で綴じ付けて留めたりもします。

【写真のケーキの材料】

メタセコイア・ヘクソカズラ・ジュズダマ・ヤマノイモ・ノイバラ・ハクウンボク・ヒノキ・コバンソウ・ケケンボナシ・タカノツメ（枝を削ったものを、削ったホワイトチョコに見立てました）などを使っています。

他には、ツルウメモドキ・エノコログサ・ナンキンハゼ・エゴ・スギ・ヒイラギ・ヒメコバンソウ・サルトリイバラ・ヤシヤブシ・チャ・ハンノキ・ヒメヤシヤブシ・キリ・ツブラジイなどいろいろなものがありますが、探せばまだあると思います。



▲ケーキはいかが？

【デコレーションの方法】

規則的に並べるのは整然と整っていいのですが、アンバランスに飾ってみるのも楽しいと思います。

プログラムに親子で参加して、子供がさっさと終わらせて遊んでいるのに、一緒に来たお父さんやお母さん「がもうちょっと、もうちょっと」と言いながら作っていたのが、とても印象に残っています。

飾っておくと緑の葉っぱや赤い実は色があせてしまいます。これも自然、致し方ないことです。

デコレーションケーキもいいのですが、四角い豆腐の空パックなどで、さまざまなショートケーキを作っても楽しいでしょう。

私の活動紹介



西三河支部：松山 太

1. きっかけ

今から二十数年前、妻の茶花講座のついでに受講したアウトドア講座で、野鳥の可愛さに惹かれ野鳥の会に入会しました。瀬戸の岩屋堂で1人鳥見をしている時、皆で楽しそうにしゃがんだり覗きこんだりしている集団に出くわし、何となく付いて行ったのが尾張支部の自然観察会でした。

次に誘われて参加した観察会「春の坂本谷」では、花の美しさと種類・量の多さ、それらを次々と楽しく教えてくれる北岡講師の知識と話の面白さ、花ごとに「ワーキヤーキレイカワイイ」を連呼連発する女性陣のすごい盛り上がり等々にただもう圧倒されて感心するばかりでした。何か不思議な新世界へ踏み込んでしまったようです。

2. 指導員登録

それ以来すっかり気に入って、毎週いろいろな観察会に参加し、講師の方々にはすごく楽しませてもらいました。ただ元々無口で、仕事もそれまでの趣味も技術系の私は、指導員になるとか人前でしゃべられるとは全然思っていませんでした。ですが長年お世話になっている方々から誘われてお手伝いしてみると少しずつ慣れて、不思議なもので話ができるようになりました。

「習うより慣れろ」ということみたいです。

3. 西尾いきものふれあいの里

西三河自然観察会に入会して、それまでよく参加していた「西尾いきものふれあいの里」での観察会を近藤守さんから引き継ぐ事になりました。そこではあえて自分のよく知らない事もテーマにして、自分の勉強

強の場にしてしまおう、自分が楽しんでやればいいんだと開き直ってやる事にしました。山ばかり歩いていたので低地の身近な普通の植物は知らないし、昆虫・かえる・シダなど今まで見て見ぬふりしてきて判らない事だらけですが、毎回参加者の皆さんにいろいろ見つけてもらって、その場で教えあったり図鑑を調べたり。名前にたどり着けた時は喜びを共有できて楽しいです。

ひとつ心がけているのは、観察会のまとめを毎回作って、参加してくれた方やメールでお送りして見てもらう事。復習になるし次回の案内も入れて、また行ってみようという気持ちになってもらえればよいな～と思っています。その観察会で見られた種をなるべく正確にたくさん記録する事で、データの蓄積にもなります。ネイチャーセンターのご協力で入口に掲示してもらい、一般来園者の方にも見ていただいています。

それともうひとつ、人の名前もなるべく覚えてもらおうと心がけています。木工細工のとても上手な方が、ブナの葉型の素晴らしい木の名札を提供して下さいだったので、毎回皆さんに付けてもらい、私もなるべくお名前を呼んで話しかけます。皆さんがお互いに名前呼び合えば親近感が沸いて、横のつながりもできますよね。自然観察でも親しみを感じる事の第一歩が名前を知る事で、わからなければ知りたいと思う気持ちが興味を深め、わかった時に自分の進歩を感じて、またもっと知りたくなります。

知るは楽しみなり。それを共有できる人の輪を広げていきたいと思っています。

第3回理事会

日時：7月16日(月・祝)13:30～16:50 場所：刈谷市産業振興センター301会議室

出席者：大谷・降幡・星野・浅井・石原・近藤・久米・森田・布目・永田・松尾・齋竹・三田

議案1 協議会のパンフレットについて：A4版で4ページの見開き版

1p	会の名称と愛知県(東海地方)固有の動植物の写真
2p	愛知県自然観察指導員連絡協議会の紹介と活動内容
3p	沿革(30年の歩み)
4p	各支部での観察会と連絡先(ホームページのURL)

今後は、8月に2回の実行委員会を開き末日までには原稿完成、9月19日までに編集、20日に原稿印刷、末日までに印刷・製本予定。10月6日の名古屋自然観察会30周年記念行事に間に合わせる。

議案2 国連ESD会議支援実行委員会(5月に発足)への取り組み

会議の日程・会場が未確定のため実行委員会でも取り組みの詳細が決まっていないが、当会では県に協力し実行委員会に参加協力することを確認。

議案3 フォローアップ研修会について

10月7、8日に海上の森センター(瀬戸市)で開催。テーマは「水辺の生き物から里山を学ぶ」。申し込みは8月10日から9月21日までに日本自然保護協会へ。

議案4 理事への業務手当について

2011年の業務手当(75,000円)の内訳について再度確認し直す。

2009年の業務手当の支払いについては当時の会計担当に連絡して調べること。

議題5 理事会 開催日の確認

第4回	11月24日(土・祝)13:30～	尾張支部担当	来年度の事業計画案、ESD
第5回	2月11日(月・祝)10:00～	名古屋支部担当	会計決算、来年度事業計画

議題6 会員の管理

2010年度、尾張支部の会員1名が会費を納入したが、名簿への登載や協議会ニュースの送付がされなかった。このようなことが二度と起こらないよう事務局、会計、名簿管理と支部が緊密な連絡をとり対応するよう要望が出され、各支部長から7月31日までに会費の納入状況を名簿管理に送ることを決めた。

年度途中入会者は一年間の会費を納入。愛知県の講習会での入会者は通信連絡費として500円納入し、会費は次年度から納入することを確認。

議題7 各担当から

- (1) 各支部 名古屋と知多の30周年記念行事の要項を機関紙に載せる。
- (2) 機関誌 発送は8月2日以降になる予定。
- (3) H P システム変更ためプロバイダ料金アップ。8,000円→8,820円。
- (4) 保 険 定光寺観察会(瀬戸市)でトイレの便器の破損で手を切る事故が発生。保険は観察会実施時間内のみ認定。帰宅時の事故は対象にはならない。
- (5) 名 簿 会員数(7月末):総数384名(名104、尾84、知70、西46、東64、奥12、協議会のみ3、顧問4、団体16、機関誌送付数407部)
- (6) タケ調査 メッシュの大きさや三種のタケが混在する場合などの問題
- (7) 事務局 過去の協議会の調査結果をお持ちの方は知らせてほしい。

= 事務局より =

■ 30 周年記念事業 = 名古屋支部 =

10 月 6 日、名古屋自然観察会が 30 周年記念行事を行い無事に終了しました。名古屋支部のみなさま、おつかれさまでした。

<参照>

本誌 P 3 名古屋支部 30 周年記念事業報告
※知多支部 30 周年事業は、11/23(金・休)
開催です。次号 No.138 (3/1 発行)掲載予定。

■ フォローアップ研修会

10 月 7、8 日、海上の森センター(瀬戸市)で「水辺の生き物から里山を学ぶ」をテーマにフォローアップ研修開催。参加者がやや少なかったのですが、調査するおもしろさを味わうことができるプログラムでした。

<参照>

本誌 P 2 フォローアップ研修



■ = 国連 ESD 会議 =

2014 年 11 月開催

理事会報告 (P 9 参照)にある通り、会で承認されました。愛知県や名古屋市から支援実行委員会への参加要請を受けており、来年 5 月始動予定です。その節は、会員のみなさまの協力を、よろしくお願いいたします。

■ 平成 25 年度総会

3 月 20 日 (水・休)

平成 25 年度通常総会は、例年通り春分の日に開催されます。会場、講演会演題、講師など詳細につきましては、本誌次号 No.138 にてお知らせいたします。日程調整をお願いします。

■ 平成 25 年

自然観察指導員講習会開催予定

これまで 2 泊 3 日の日程で実施されてきた自然観察指導員講習会のシステムが見直されています。3 日間の講習会が 2 日間に短縮され、これまで野外実習として実施されていた「地域の自然」が講義内容から除かれる模様です。

会員のみなさまにお願いです。来年の講習会に向け、観察会参加者のなかに、自然観察指導員として活動可能でなおかつ適切な人材がみえましたら、今のうちからは是非アプローチをしておいてください。

■ ML「自然観察」

愛知県自然観察指導員連絡協議会の会員で構成するメーリングリスト「自然観察」が運営されています。(管理者：齋竹善行会員 (尾張支部))

現在、71 名の参加で、生物暦を中心に、自然についてのさまざまな情報提供・話題提供がされています。

この ML に参加希望の方は、下記アドレスに連絡ください。

BZA03620@nifty.ne.jp

尚、この ML は協議会の活性化を目的に、齋竹会員が自主的に管理・運営されているものです。マナーを守って参加ください。

(事務局 浅井)

<< 行事案内 >>

お知らせ

■協議会事業

平成 25 年度通常総会 = 愛知県自然観察指導員連絡協議会 =

3 月 20 日 (月・休) 午後

会場：未定

その他記念講演など未定 ※本誌次号No.138 に詳細を掲載予定。

■支部事情

■尾張支部総会

日時：平成 25 年 1 月 14 日 (月・休) 13:30～17:00

場所：東桜会館 第 1 会議室 (名古屋市東区東桜 2-6-30)

※～募集：事例発表～

「こんな観察会をやっている!」、「こんな観察会をやりたい!」、
「こんな失敗談がある!」、「こんなノウハウを持っている!」etc、
発表していただける方を 5 名程募集

問合先：尾張支部/事務局 吉田 (080-5294-5134)

■知多支部総会

日時：平成 25 年 2 月 16 日 (土) 9:30～12:00

場所：阿久比町勤労福祉会館センター (エスペランサ丸山)

問合先：南川 (0569-42-5382)

(平成 24 年 11 月 20 日現在決定している支部総会を記載)

編 集 部 か ら

- 今年はいつまでも暑い日が続きました。自然観察 ML でも花の開花時期が話題になりました。秋は足早に去り、初冬が駆け足でやってきました。どんな冬が待っているのでしょうか。
- 「自然観察のヒント」のページにて数々のクラフトを、この 1 年間河江喜久代会員 (西三河支部) に紹介していただきました。その発想や工夫には脱帽ですね。みなさんから、「こんなものを作ったよ!」と編集部あてに連絡をお待ちしています。
- 「協議会ニュース」の発送担当を、名古屋支部有志のみなさんに協力していただけることになりました。よろしくお願いいたします。

編 集 ス タ ッ プ

岡田 雅子 久米未祐
近藤 記巳子 新山 雅一
山口 健

発 送 ス タ ッ プ

名古屋支部有志

「協議会ニュース」編集部

〒457-0006 名古屋市南区鳥栖 2 - 6 - 17

桜本町 C H 101

近藤 記巳子

TEL / FAX 052-822-7460

E-mail : konkimi@nifty.com

- 愛知県自然観察指導員連絡協議会 (あいち自然観察会) 事務局

〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7 - 3 石原 則義

TEL / FAX 052-711-3087 E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp

- Web Page : <http://naichi.net/>